



# アルゼンチン通信



第13号 2025年08月31日発行(毎月月末発行予定)

JICAシニア海外協力隊2024年1次隊:経営管理

玉東町グローバル2024年03月卒業生

鈴木功二 サンティアゴ・デル・エステロ在住

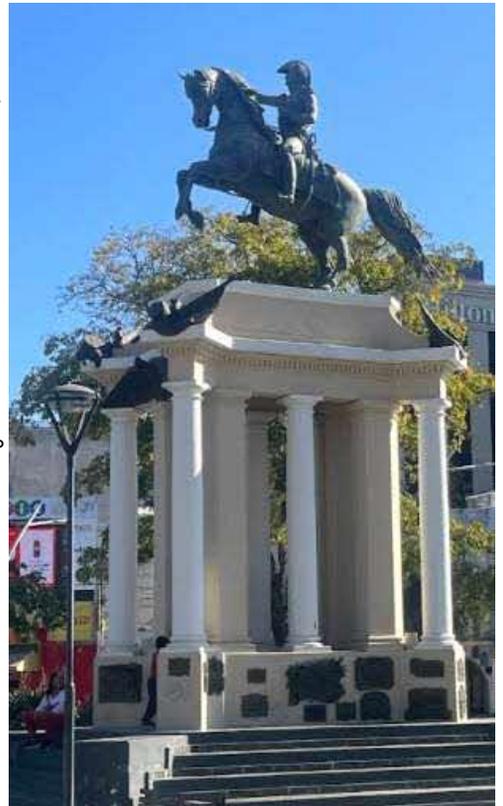
・8月の気候は7月とほぼ同じでした。日中の気温が25℃を超えることもあれば、朝の気温が5℃以下の日もあり、一日の中でも10℃以上の気温差があったり、昨日と今日で10℃以上の気温差がある日もありました。朝は冬、昼は夏のような気候ですが、日本のように湿度が高くなく、日中の蒸し暑さがないのが助かります。

・8月の祝日は、8月15日が観光促進休日(観光目的の休業日)、8月17日がサン・マルティン将軍逝去の日でした。サン・マルティン将軍を日本の世界史の授業では習わないので、日本人の多くは知らないと思いますが、アルゼンチンだけでなく、チリやペルーでも独立の英雄であり、多くの都市にサン・マルティン広場があります。私が住んでいるサンティアゴデルエステロにも、政府庁舎の前にサン・マルティン広場があり、その中には大きなサン・マルティン将軍の像があります。今年将軍の死後150年であり、8月17日には将軍の像の前でセレモニーが行われました。

・祝日になっている将軍は、他にゲーメス将軍とベルグラノ将軍がいて、独立したのは1816年。日本では幕末の頃であり、日本で言えば、「幕末の三傑」(西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允)に相当する英雄がこの三人の将軍なのかなと思います。

・8月17日(8月の第3日曜日)は、「子供の日」でもあり、子供にプレゼントを贈る習慣があるようで、日曜日はいつも閉まっているおもちゃ屋が開店していて、親子連れで賑わっていました。(「子供の日」は、日本では5月5日の端午の節句ですが、世界的には6月1日としている国が多いです。)

【サン・マルティン将軍の像】



- ・今回は、私が住んでいる部屋を清掃業者の人に清掃してもらったので、清掃事情について報告します。
- ・まず、日本の住環境との違いを三つに限定すると、①水質、②環境や習慣に準じた建築様式、③設計や資材の質が、大きな違いです。
- ・①について、日本は軟水で、災害時を除いて断水することはない、どこでも水道水をそのまま飲むことができます。特に、熊本の水道水は、とても美味しく、これは、地下水100%であり、その地下水は、阿蘇山の天然フィルターに濾過されている為です。一方、私が住んでいるサンティアゴデルエステロの水道水は、硬水であり、また、街を流れるドゥルセ川からも取水している為微量の塩分が含まれます。(ドゥルセ川は、マール・チキータという内陸湖の塩湖に流れ留まり、大西洋には流れ出ません。) また、災害はないのに、断水したり、水が茶色くなったりすることがあります。これは、乾燥して風が強く吹く気候の中で、土の微成分がタンクの中に入り込み、計画的にメンテナンスを確実に実施していないことが原因と推測しています。従って、水を直接飲むときはペットボトルの水を飲み、水道水を料理等で使うときは、日本から持ち込んだ濾過器を使っています。水道水には微量の土成分と塩成分が含まれている為、電気ポットを使っていると、ポットの中に白い沈殿物ができるし、水道水を使う炊事場や洗面台、シャワー室等は、汚れ(水垢)の付着が早くなります。
- ・②について、日本では木材が家の壁や天井、床等、様々な場所に使われますが、こちらは気温差が激しく、乾燥しているので、部屋の壁は、レンガにコンクリート、その上に塗料を塗る、シャワー室はタイルを貼る等で、木材は使われません。木材は、気温差で割れたりするので、使えないと建築関係者が言っていました。また、ここでは、キッチンに換気扇がない代わりにオープンがあったり、トイレにウォシュレットがない代わりにビデがあったり、文化や生活習慣による違いもあります。
- ・③について、汚れにくく清掃しやすいとはいえ、例えば、陶器の色は白いのですが、コーティングの質が影響しているのか、トイレの陶器等は汚れや黒ずみが付着しやすく、洗面台の構造の影響か、水の跳ね返りが付着しやすい構造になっていたりします。

さて、清掃業者の人による掃除で、私の経験との違いを三つに限定して紹介します。

① 6種類もの洗剤を浴室とキッチン清掃場所によって使い分ける。(日本では洗剤も使うことはあったが、水拭きと乾拭きが基本だった。)

② アルミのたわしを使ってキッチンのシンクを洗う。(日本では、金属系のたわしはシンクを傷つけるので、私は使わなかった。)

③ 清掃業者の人には靴を脱いでもらったのだが、靴下を履いたままシャワー室を水を使って清掃、当然、靴下は濡れるが、濡れたままで靴を履いて、帰って行かれた。私の感覚では、汚い街路を歩いた土足のままで室内に入ったり、濡れた靴下のみで靴を履いたりすることに抵抗を感じるが、生活感覚や身体感覚による違いなのだと思います。

今回、清掃について、周りの人に訊いて回る中で、最も印象深かったことは、ほとんどの人が家政婦の人に家の中を掃除してもらっていることで、中には掃除の方法を知らず、家政婦任せにしている人もいたことだ。これは、共働きの子育て世帯が多く、雇うことができる経済条件や法整備、長年の習慣として定着している為と思われる。日本では「家政婦」として登録されている人数は減少傾向にあり、家事代行サービス業者もあるが、その料金を支払うことができるような相対的に裕福な世帯は、ここほど多くないように感じます。

そういえば、アルゼンチンの学校では、掃除の時間がなく、生徒が清掃することではなく、清掃員が清掃することに気が付いた。日本の学校では、掃除の時間があり、清掃する習慣が根付いている。生徒が清掃する国は国際的に少数派だが、清掃は、心を清掃することでもあり、単なる労働以上の価値があると私は思います。

アルゼンチンの街路に多くのゴミが落ちていたり汚かったり、職場で5Sが行き届いていないのは、清掃は清掃員がすることであって、自ら清掃する習慣がないことが、最も大きな要因だと感じました。

※5S：「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ」の頭文字から取った5つのSのことで、特に職場環境を改善し、生産性と効率を向上させる品質管理の基本。

【少し黄ばみで汚れている洗面台】  
鏡も水滴の跡が白く残っている。



【便器の中の黒ずみや汚れ】



【キッチンのシンク周りの水滴が乾いて  
白くなっている跡】



【どの家庭でも常備していると言われた  
洗剤6本と金属系のたわし類等】



(スペイン語版を同時配信)

【キッチンテーブルは、アルミたわしを使って水洗い】



鈴木功二